

令和元年度事業報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人 亀岡人と自然のネットワーク

1 事業の成果

今年度も琵琶湖淀川水系で唯一となったアユモドキ個体群の生息環境の保全、調査を中心に活動を行ってきた。6月のラバー堰下流での救出個体は、昨年度39尾を上回る59尾であった。徐々に回復の兆しもあるが2012年の147尾の水準には回復していない。秋の推定個体数調査の結果は、当歳魚548尾、1歳以上魚349尾で、昨年よりは増加した。ここ5年、当歳魚は300~500台をキープしており保全活動の効果を確認することもできるが、それに応じた1歳以上魚の増加は認められない傾向である。

7月にオオクチバス14尾がアユモドキ生息域で目視され、今年度もラバー堰落水時に地元自治会、土地改良区、保津川漁協ら関係者で梁漁が行われた。また、特定外来魚の供給源の一つである中山池における駆除が長年の課題であったが、環境省交付金事業により、地元土地改良区の協力を得て初めて池干しによる駆除・調査を行い、オオクチバス204尾、ブルーギル6396尾を駆除することができた。

今年度も南丹市の寅天堰で分布調査を実施したが、アユモドキを発見することはできなかった。一方、昨年度に1尾が確認された桂川支流では、NPO調査時には確認できなかったが、改修事業による保全調査で複数の成魚が確認されたことは特筆される。

京都府スタジアム建設に伴う保全対策として、老朽化したラバー堰の改修工事が12月~3月に実施され、生息環境保全と個体保護に携わった。

今年度も、アユモドキの減少原因調査、増殖方策検討のため、桂川合流部と曾我谷川上流部で移動状況調査を行った。

亀岡市等と連携してアユモドキなど自然環境保全に関する普及啓発活動を行った。今年度に竣工したサンガスタジアムのアユモドキ飼育支援活動を始めた。

亀岡市内には希少種ヤマトサンショウウオが生息しており、次年度以降の調査計画を検討するため現況調査を実施した。

アユモドキ生息域とその周辺では、京都スタジアム建設の他にも公園整備や圃場整備、道路、河川改修事業が計画及び実施されている。今後も人と自然の共生のため、アユモドキなど自然環境の保全に取り組んでいきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	当該事業の 実施日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲び人 数	事業費の金額 (概算) (単位：千円)
(1)野生生物、 生態環境等に 関する調査	〇丹波地域アユモドキ保 全回復事業	令和元年5月 17日~令和2 年3月26日	曾我谷 川周辺	460人	京都府民 260万人	1,700
	亀岡市アユモドキ分布状 況調査・生息地改善事業	令和元年6月 4日~令和2年 3月7日	曾我谷 川周辺	120人	淀川流域 1280万人	3,000

(3)野生生物、生態環境等に理解を深める啓発活動	普及啓発活動	令和元年7月1日～令和2年3月31日	亀岡市内	30人	亀岡市民9万人	150
--------------------------	--------	--------------------	------	-----	---------	-----